

岡山県感染症週報

2011 年 第 37 週（9 月 12 日～ 9 月 18 日）

【お知らせ】9 月 24 日 ～ 30 日は『結核予防週間』です。

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2011 年 第 37 週（9/12～ 9/18）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

- 第 35 週 2 類感染症 結核 1 名（20 代 女）
- 第 36 週 2 類感染症 結核 2 名（30 代 女 1 名・90 代 女 1 名）
- 第 37 週 4 類感染症 レジオネラ症 1 名（50 代 男）の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は、今週も患者数が増え、第 34 週から増加傾向にあります。
- インフルエンザは、美作地域で 1 名報告がありました。
- 流行性角結膜炎は、備中地域で感染症発生レベル 3 がつづいています。
- 流行性耳下腺炎は、県南部を中心に患者が発生し、備中地域では感染症発生レベル 2 がつづいています。
- ヘルパンギーナ・手足口病は、全県では減少しました。
- マイコプラズマ肺炎は、前週と同数でしたが、過去に比べ高いレベルです。

【速報】第 38 週 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 40 代 男）の発生がありました。

1. 9月24日 ～ 30日は『結核予防週間』です。

～「体がだるい?」「咳が治らないの?」それって結核かも・・・～

我が国では、9月24日～30日を「結核予防週間」とし、結核を知り、正しい知識を深める期間としています。我が国の結核患者数は減少傾向にありますが、いまだ年間2万3千を超える新規患者が発生しており、依然として主要な感染症です。岡山県では年間約300名の新規患者が発生しており、結核予防意識の一層の普及を図るため、街頭キャンペーンや各保健所で普及啓発活動を行っています。

【岡山県からのお知らせ 平成23年度結核予防週間における行事等について】

2. 腸管出血性大腸菌感染症は、9 月に 12 名、2011 年は 9 月 21 日までに 58 名の発生がありました。岡山県では腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令し、感染予防を呼びかけています。
3. RSウイルス感染症の定点あたり患者数は今週も増加し（定点あたり 0.28 → 0.31 人）、データのある 2004 年以降では、最も早い第 34 週（8 月下旬）から増加傾向にあります。
RS ウイルス感染症については『今週の注目感染症』をご覧ください。
4. インフルエンザは、美作地域で 1 名の報告があり、2011/2012 シーズン初めての患者報告となりました。
5. 流行性角結膜炎は、備中地域でひきつづき患者が多く（定点あたり 9.00 人）、第 34 週から、大きな流行が継続しつつあると考えられる感染症発生レベル 3 がつづいています。
6. 流行性耳下腺炎の定点あたり患者数は前週と同数でした（定点あたり 1.59 → 1.59 人）。県南部、特に倉敷市（2.73 人）、備中地域（4.14 人）で患者が多く、備中地域では今後大きな流行が発生する可能性が高いレベル 2 がつづいています。9 月中旬としては過去 10 年に比べ患者が多いため、感染に注意して下さい。
7. ヘルパンギーナ・手足口病の定点あたり患者数は、全県では減少しました（定点あたり ヘルパンギーナ 0.91 → 0.65 人、手足口病 1.46 → 1.24 人）。しかし、ヘルパンギーナは真庭地域で 4.00 人、手足口病は真庭地域 4.50 人・美作地域 3.50 人など、依然として患者の多い地域がありますので、手洗い・うがいを励行し、感染予防に心がけて下さい。
8. マイコプラズマ肺炎の定点あたり患者数は前週と同数でしたが、過去に比べ高いレベルで推移しています（基幹定点 5 医療機関 定点あたり 1.40 → 1.40 人）。全国的にも今年は、過去 5 年の同時期に比べ、かなり多くなっています。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

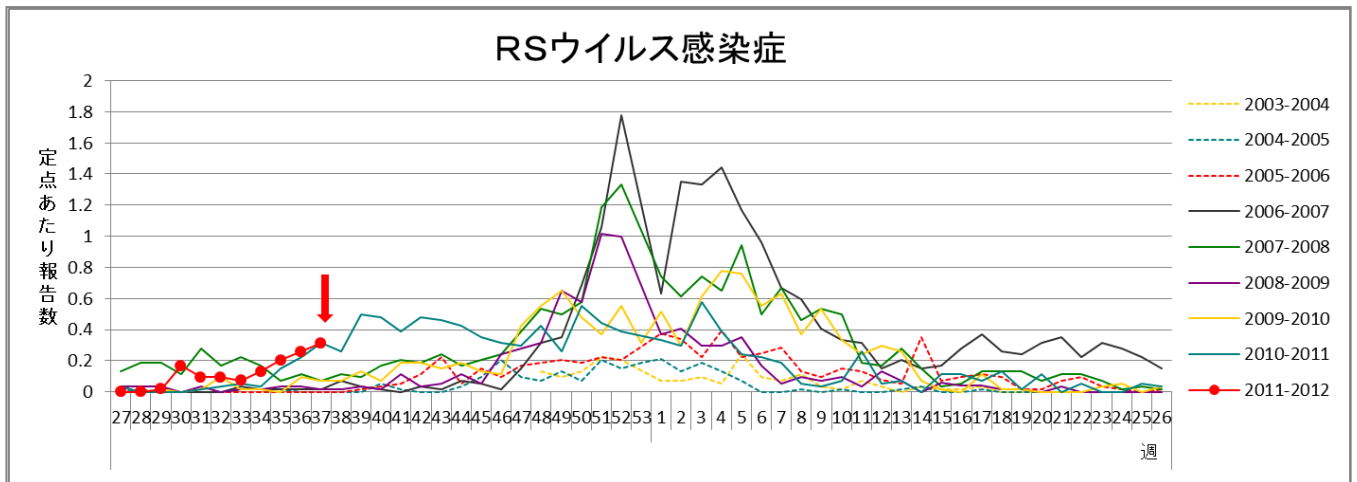
前週からの推移： 2倍以上の減少 1.1～2倍未満の減少 1.1未満の増減
 1.1～2倍未満の増加 2倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当り患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

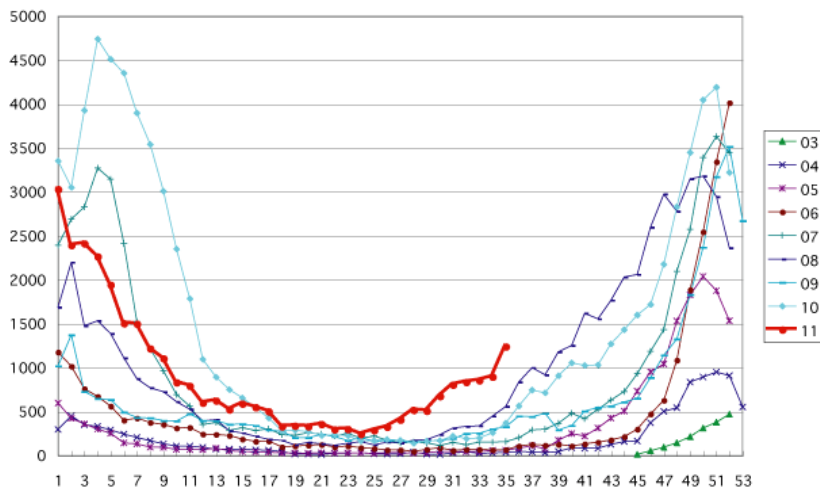
今週の注目感染症

RS ウイルス感染症



※ RS ウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ～ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

全国のRSウイルス感染症 過去との比較グラフ
(国立感染症情報センター 第 35 週 週報より)



RS ウイルス感染症は今週も増加し（定点あたり 0.28→0.31 人）、データのある 2004 年以降では、昨年同様 8 月下旬という早い時期から患者が増加傾向にあります。国立感染症情報センターによると、全国でも、例年であれば低い水準で推移する夏から患者の増加が認められ、2004 年以降の同時期としては最多の状態が続いていると報告されています。

RS ウイルス感染症は、冬（11 月～1 月）に乳幼児の肺炎・細気管支炎などを起こす急性呼吸器感染症です。2 歳までに、ほぼ 100% の子供がこのウイルスの初感染を受けるといわれ、生涯にわたり感染を繰り返しますが、通常年齢が上がるにつれ、上気道炎や気管支炎など症状が軽くなっていき、重症化することが少なくなります。流行の中心は 1 歳以下の乳幼児で、岡山県でも 17 人中 16 人が 1 歳以下の乳幼児です。

潜伏期は 2～8 日、発熱、鼻汁、咳などで発症し、通常 8～15 日で軽快します。しかし、初めてかかる乳幼児では、しばしば肺炎や細気管支炎を発症し、乳幼児の肺炎の 50%、細気管支炎の 50～90% を占めるとされています。生後 6 ヶ月以下の乳幼児においては、母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず重症化することがあり、入院を要することもあります。特に低体重児や心臓や肺に基礎疾患があったり、免疫力が弱まっている場合には重症化の危険性が高くなります。1 歳児以下では中耳炎の合併や無呼吸、急性脳炎など重大な合併症を伴うこともあり、またまれに死亡する場合がありますので注意が必要です。

患者との密接な接触や、咳やくしゃみによるウイルスの飛沫により感染し、感染力は強いといわれています。予防には手洗い・うがい、手指の消毒、マスクの着用が効果的です。保育園や幼稚園などでは集団発生することがありますので、感染予防に心がけてください。

RS ウイルス感染症は、重篤性や合併症から特に乳幼児において極めて重要な感染症であり、お子さんの体調に注意して、早めに医療機関を受診しましょう。（[国立感染症情報センター 第 35 週 週報](#)）

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています

保健所別報告患者数 2011年 37週 (2011/09/12～2011/09/18)

2011年9月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.10
RSウイルス感染症	17	0.31	6	0.43	2	0.18	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	4	0.67
咽頭結膜熱	20	0.37	1	0.07	—	—	11	1.10	—	—	—	—	—	—	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	0.33	6	0.43	8	0.73	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	190	3.52	33	2.36	44	4.00	35	3.50	31	4.43	19	4.75	9	4.50	19	3.17
水痘	24	0.44	11	0.79	1	0.09	6	0.60	—	—	—	—	—	—	6	1.00
手足口病	67	1.24	20	1.43	6	0.55	3	0.30	8	1.14	—	—	9	4.50	21	3.50
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
突発性発疹	21	0.39	12	0.86	4	0.36	2	0.20	—	—	—	—	—	—	3	0.50
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	35	0.65	6	0.43	1	0.09	1	0.10	13	1.86	1	0.25	8	4.00	5	0.83
流行性耳下腺炎	86	1.59	15	1.07	30	2.73	10	1.00	29	4.14	2	0.50	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	11	0.92	—	—	1	0.25	2	2.00	8	8.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	2	2.00	4	4.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 37週 (2011/09/12～2011/09/18)

2011年9月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.10
咽頭結膜熱	20	0.37	1	0.07	—	—	11	1.10	—	—	—	—	—	—	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	0.33	6	0.43	8	0.73	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	190	3.52	33	2.36	44	4.00	35	3.50	31	4.43	19	4.75	9	4.50	19	3.17
水痘	24	0.44	11	0.79	1	0.09	6	0.60	—	—	—	—	—	—	6	1.00
手足口病	67	1.24	20	1.43	6	0.55	3	0.30	8	1.14	—	—	9	4.50	21	3.50
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	35	0.65	6	0.43	1	0.09	1	0.10	13	1.86	1	0.25	8	4.00	5	0.83
流行性耳下腺炎	86	1.59	15	1.07	30	2.73	10	1.00	29	4.14	2	0.50	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	11	0.92	—	—	1	0.25	2	2.00	8	8.00	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第37週 2011/09/12～2011/09/18)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	17	3	8	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	20	-	2	3	1	6	-	3	2	1	-	1	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	-	-	-	1	1	3	3	1	4	-	2	1	-	2
感染性胃腸炎	190	5	14	18	20	22	10	14	12	11	9	4	22	9	20
水痘	24	-	1	5	4	7	3	3	-	1	-	-	-	-	-
手足口病	67	-	8	19	17	6	5	6	1	1	-	-	-	1	3
伝染性紅斑	3	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	14	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	35	-	2	12	8	5	4	2	-	1	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	86	-	-	8	6	10	14	21	11	7	3	1	4	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	11	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	1	2	-	2	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	3	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

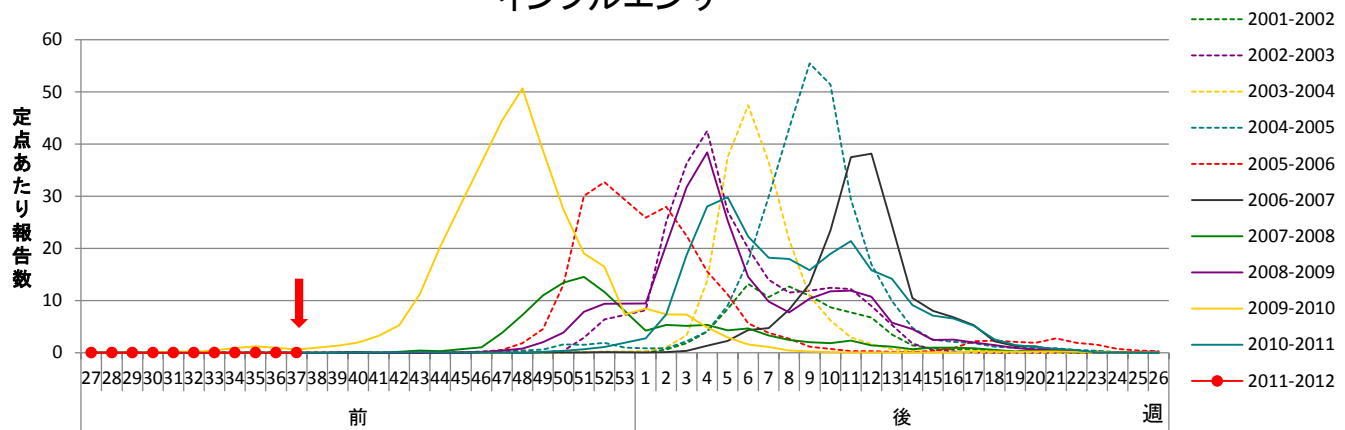
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

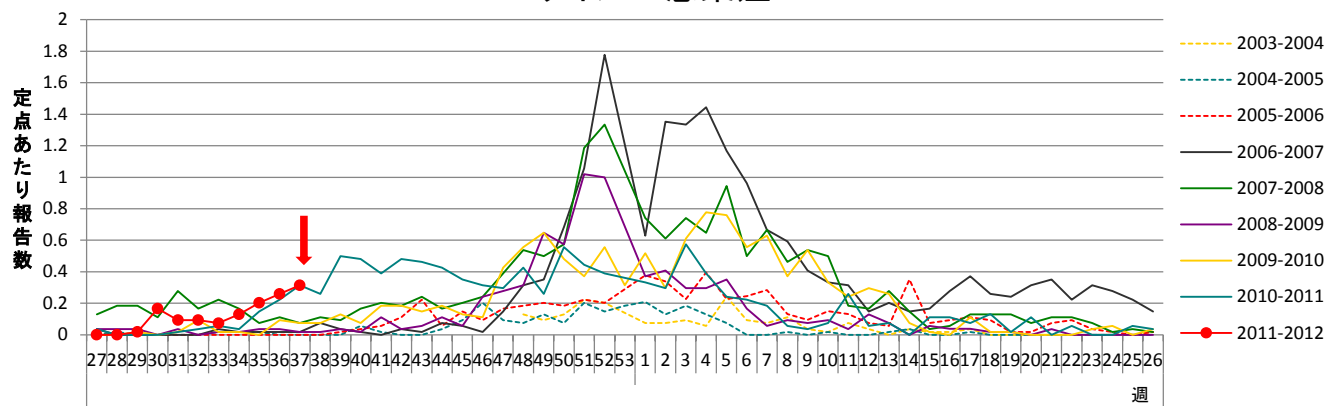
2011 年 37 週

分類	疾病名	2011			2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	347	352	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	48
	腸チフス	-	-	-		-	-	-		-	66
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本脳炎 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱	-	3
	エキノкокクス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	-	-		-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	つつが虫病	-	2	1		-	-	7		-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本紅斑熱	-	1	-		-	-	-		-	-
	鼻疽	-	-	-		-	-	-		-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	1
	マラリア	-	-	-		-	-	-		-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	-
	レジオネラ症	1	14	19		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 梅毒 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	7	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 髄膜炎菌性髄膜炎 破傷風 風しん	-	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	1	2		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	10	22		-	2	5		-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-		-	8	9		-	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-		-	-	3		-	1
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	2

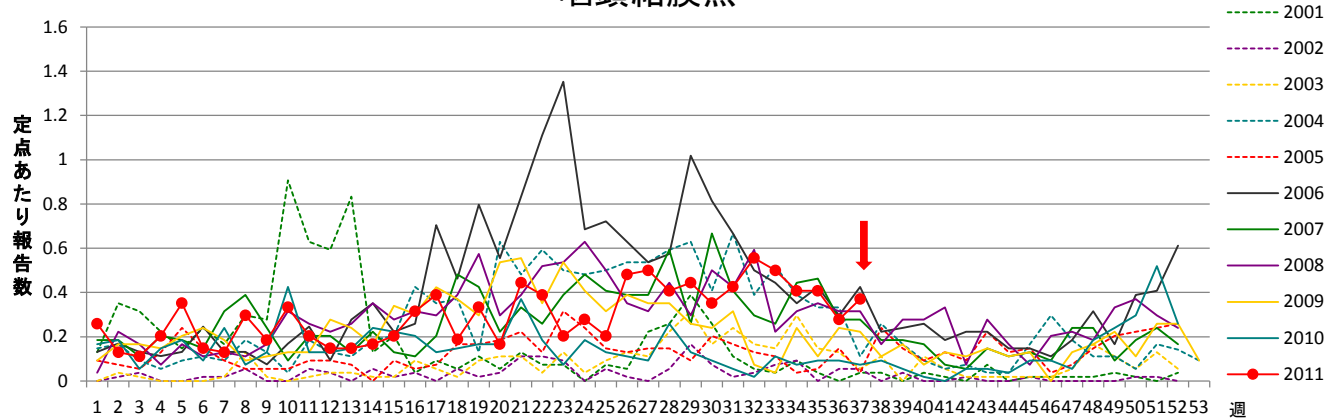
インフルエンザ



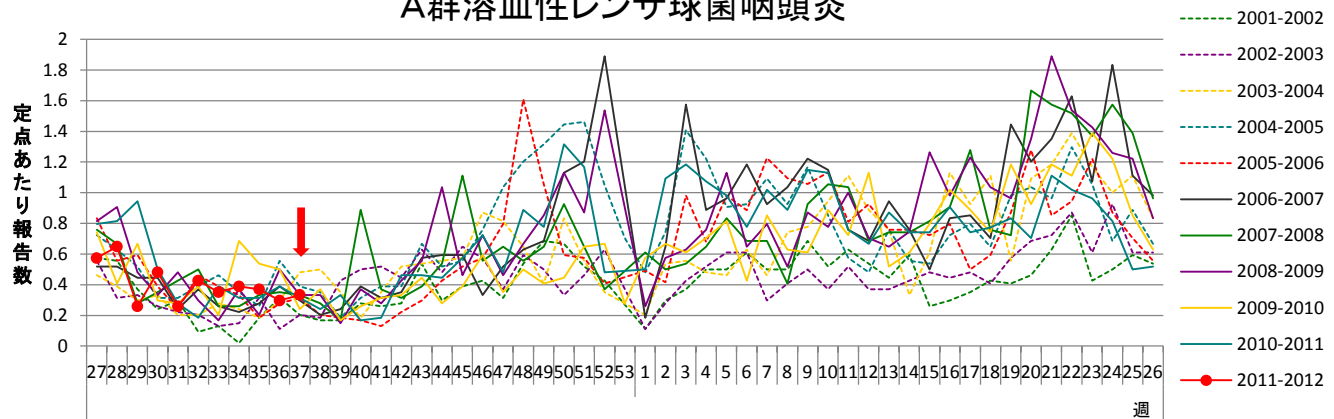
RSウイルス感染症



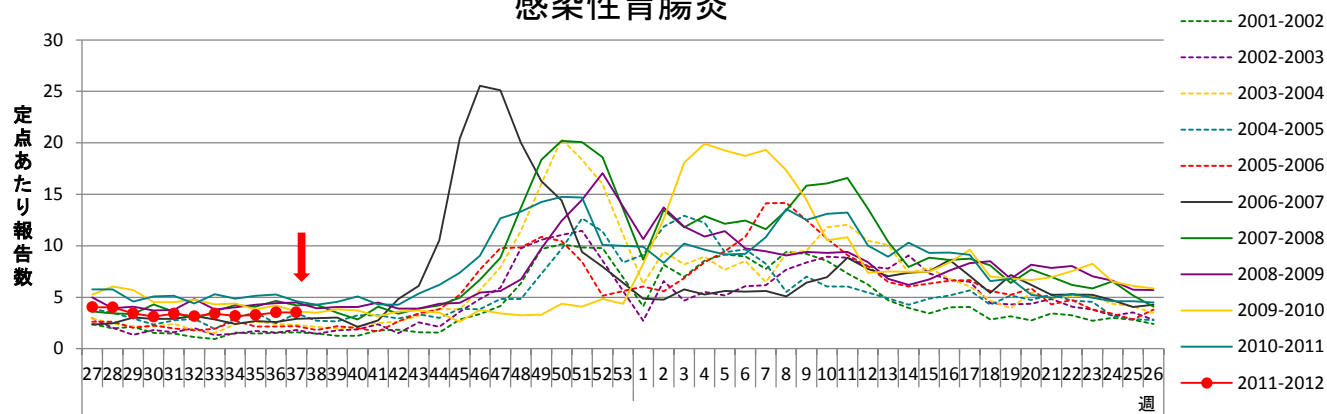
咽頭結膜熱



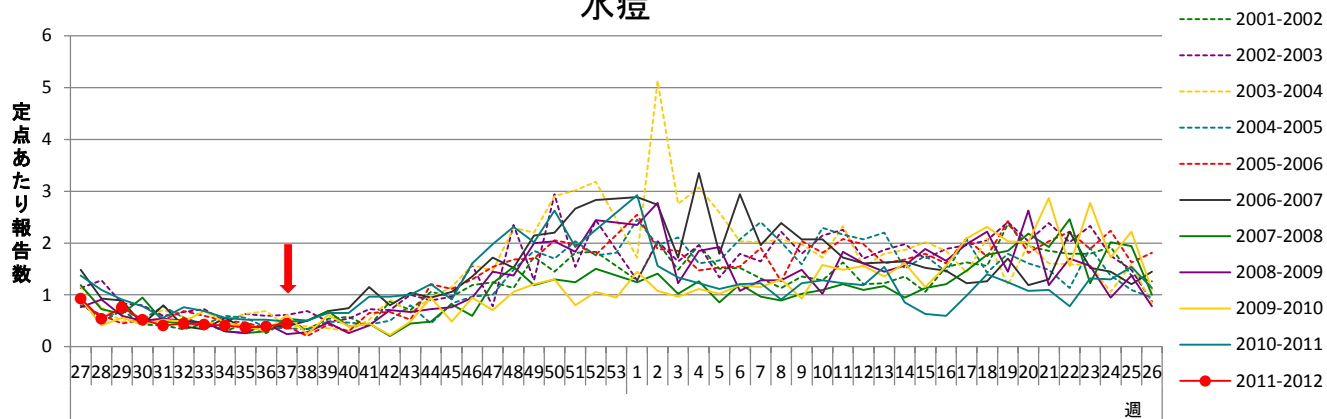
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



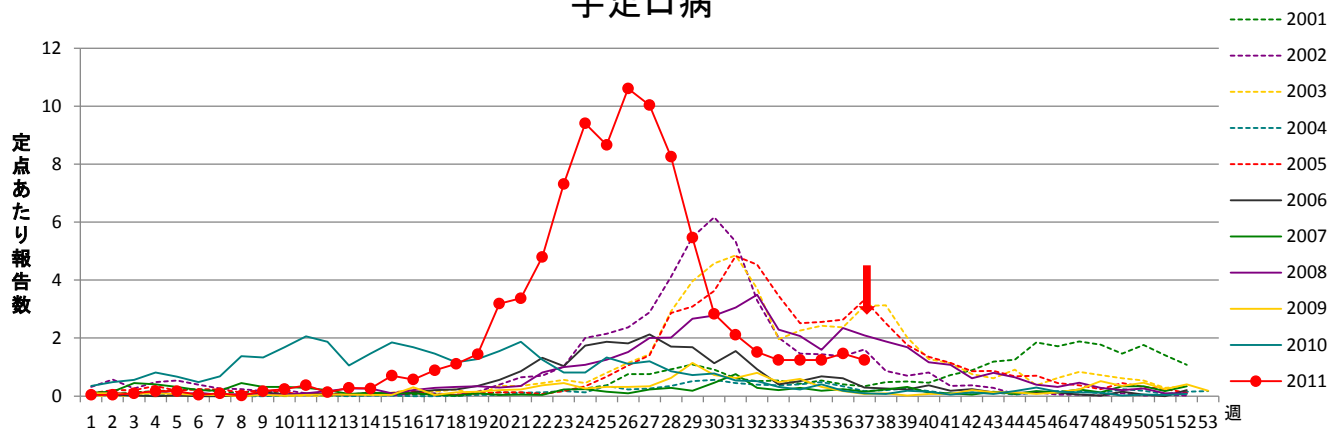
感染性胃腸炎



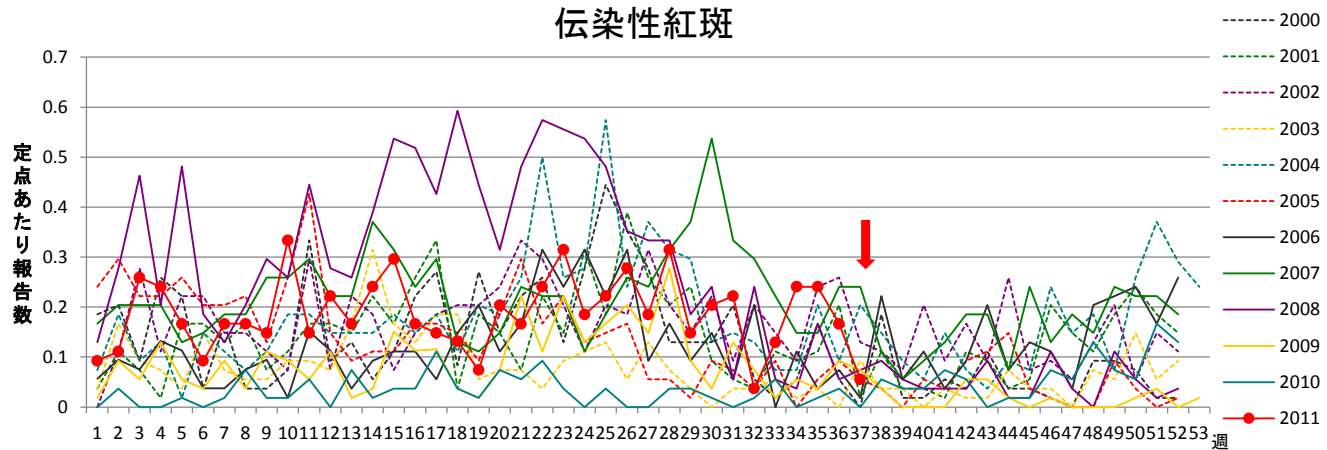
水痘



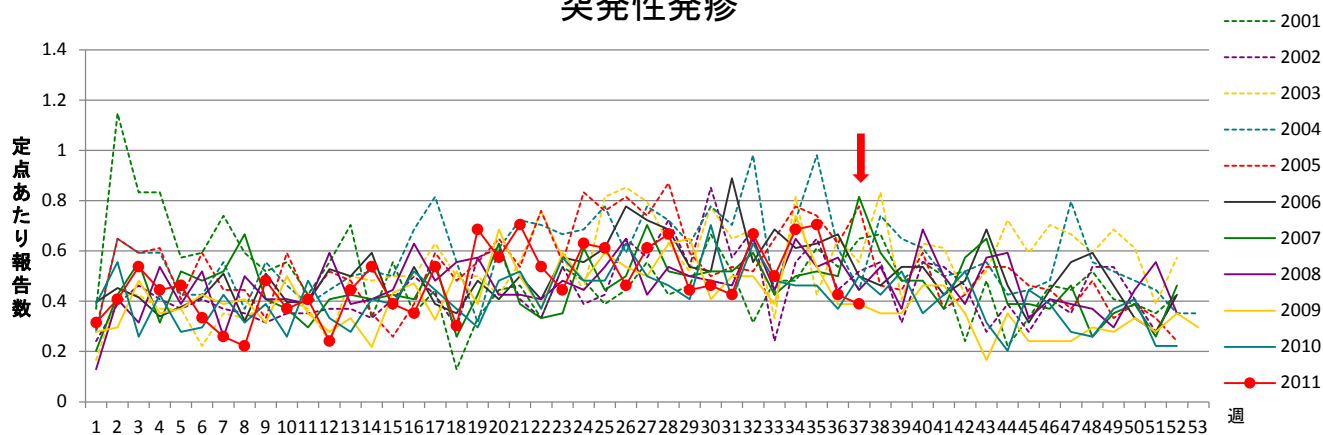
手足口病



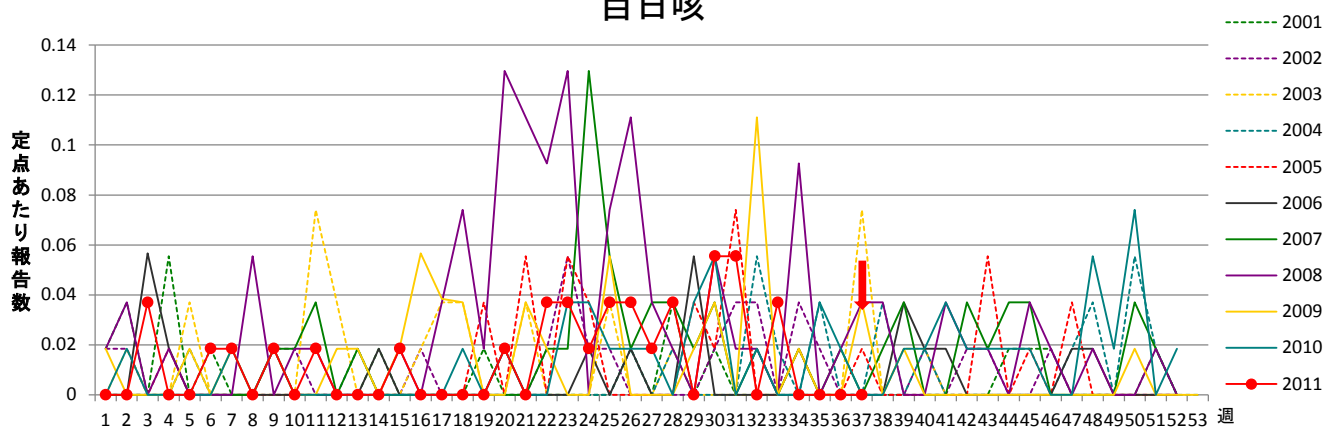
伝染性紅斑



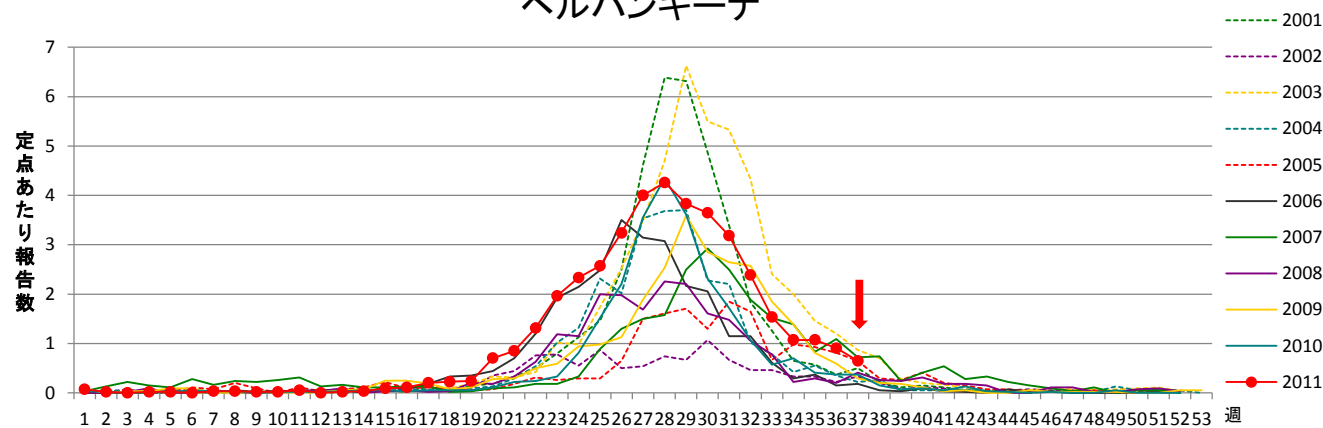
突発性発疹



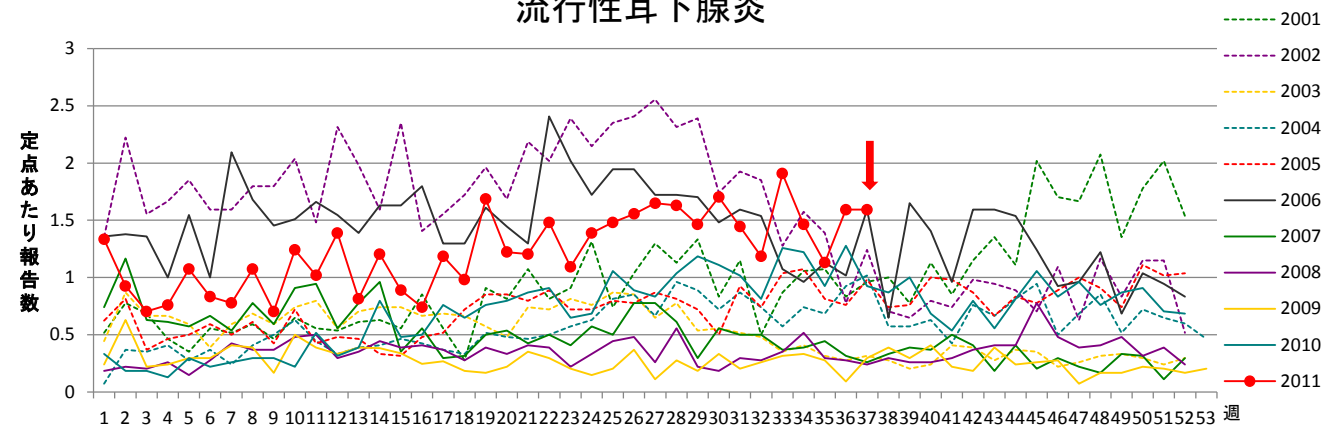
百日咳



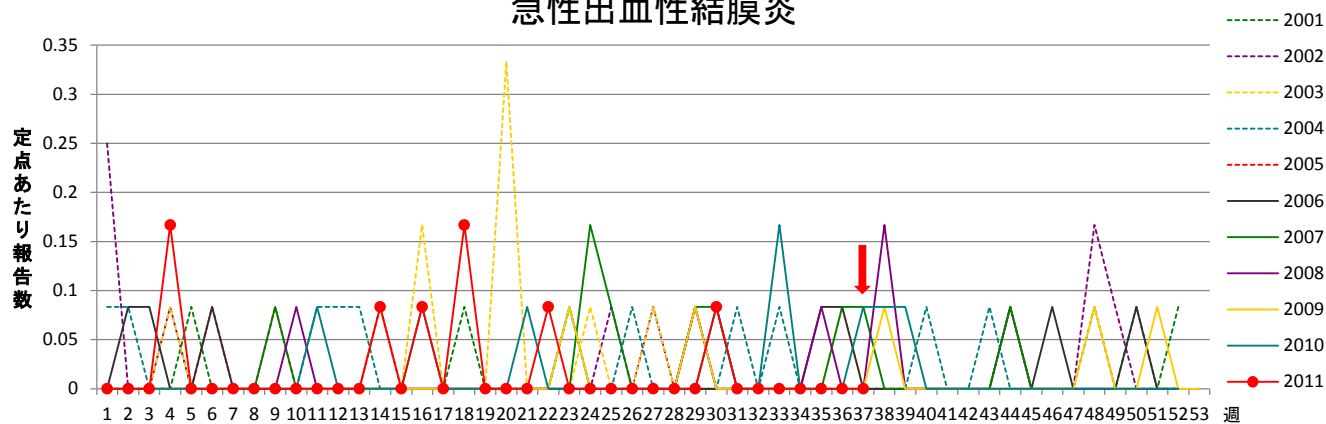
ヘルパンギーナ



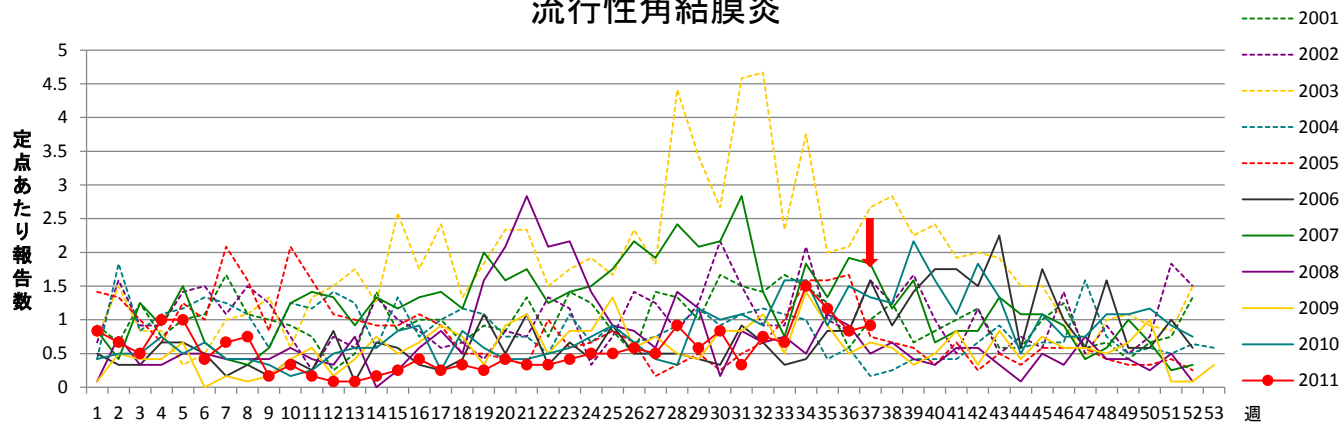
流行性耳下腺炎



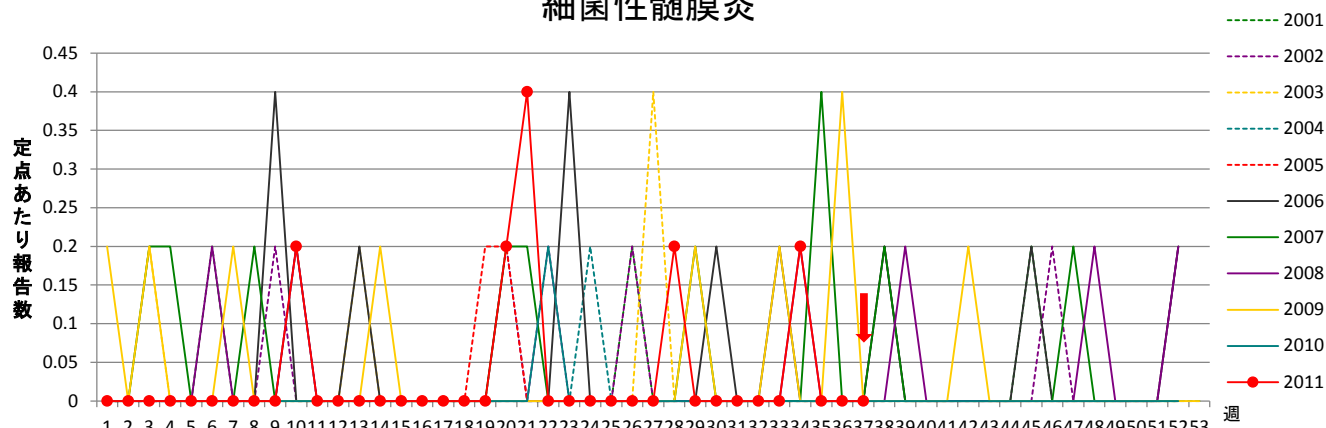
急性出血性結膜炎



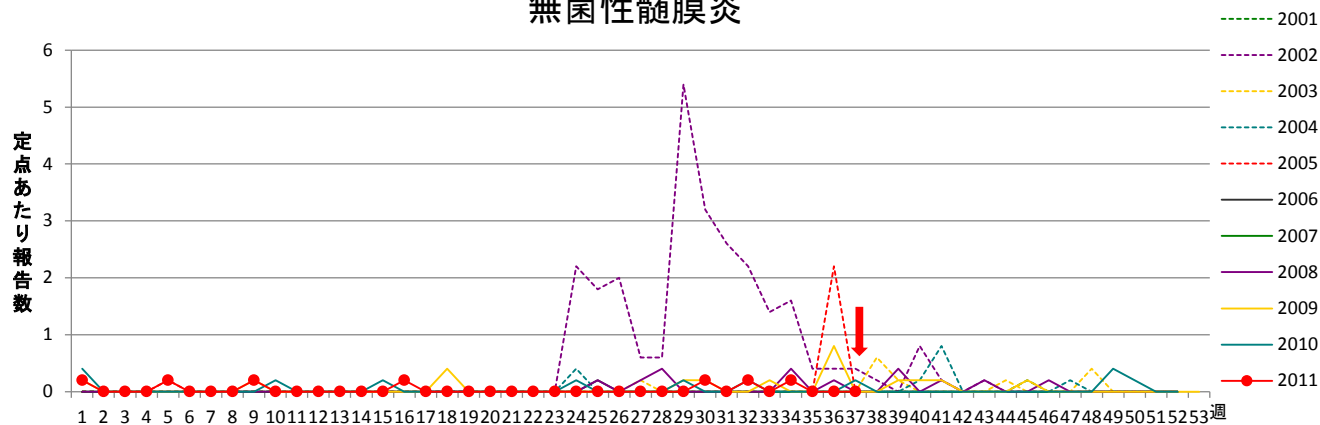
流行性角結膜炎



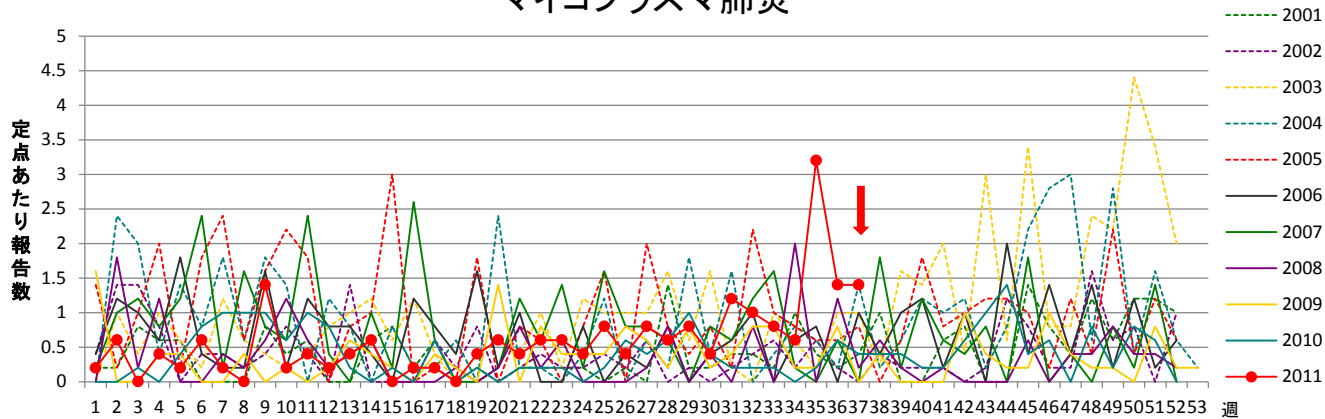
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

